

辻堂小学校第2回学校運営協議会 会議録

【第2回】(2026年6月19日開催)

1. 決定事項

- **連絡システムの活用**: 学校運営協議会の委員に対し、学校の連絡システムへの登録を依頼することが決定(2学期以降、随時活動計画やサポート依頼を発信予定)。
- **卒業式への招待方針**: 今後の卒業式への委員招待について、「来賓」ではなく「学校運営を共に担うパートナー(学校の一員)」として案内・呼びかける方針を確認。

2. 今後の取組及び検討事項

- **情報共有と確認**:
 - 各学年の活動計画表(1年～6年)を参加者全員が持ち帰り、内容を確認する。
 - 今回の協議内容を印刷・掲示し、学校職員へ共有する。
 - 校内研究推進委員に対し、本協議内容を踏まえた検討を促す。
- **地域連携の具体化**:
 - 辻堂市民センターが学校のニーズに応じた人材紹介のプラットフォームとして機能できるよう、具体的な連携を検討する。
 - グループワーク(円卓会議)にて「辻堂の地域と学校が連携して育てたい子供の姿」についての議論・検討を継続する。

3. 協議内容の概要

- **本日の会議のねらいと校長挨拶**: 校長より、文部科学省の「地域に開かれた教育課程」の方針を踏まえ、学校職員だけでなく地域のリアルな声を反映して教育課程の根幹を作っていくことの重要性が改めて語られました。本日のゴールは、具体的な活動レベルの話にとどまらず、「辻堂の地域と学校が連携して、未来にどんな子どもを育てたいか」という大きな方向性を全員で共有することであると示されました。
- **話題提供①: 川延委員による「辻堂という環境の特徴と歴史」**: 辻堂生まれ・辻堂育ち(63年)の経験から、古い歴史と現在の変化が生き生きと語られました。

昔の文化と強い結束: 昭和30～40年代は農業やしらす漁などが中心で、「講(信仰の集まり)」や「組(自治組織)」による住民同士の助け合いが非常に強かったこと、冠婚葬祭や祭りを地域総出で行う文化があったことが紹介されました。

街の変容と現在: その後の工場の進出等で新住民が増え、一時期は排他にもなったものの、現在は伝統ある祭りを広く新しい住民にも開放するオープンな街へと変化してきた経緯が説明されました。

辻堂の魅力: 古いものと新しいものが心地よく混ざり合っており、移住者からも「都会と田舎の良さが両立して住みやすい」と評されていること、海的环境・水質も昔に比べて大幅に改善していること等が報告され、郷土資料として『辻堂歴史物語』や「ふるさとマップ」が紹介されました。

- **話題提供②: 徳島教諭・中村教諭による「学校の取り組みと願い」:** 現場の先生方から、子どもたちが主体的に学ぶ「一生忘れられない授業」をつくりたいという熱意が語られました。その実現のために、地域に対して「地域性(海や歴史などの場所・環境)」「専門性(専門知識を持つ人材)」「協力性(見守りなどの人手)」の3つの要素を求めていることが説明されました。一方で、1～6年生の細かな活動計画表を配りつつも、「コミュニティスクール(コミスク)とどう深く関わっていけばいいかについては、教員側もまだ手探りで模索している段階である」という率直な課題感も共有されました。
- **(円卓会議)グループワーク「辻堂の地域と学校が連携して育てたい子どもの姿」:** 3つのグループに分かれ、「20～30年後の社会変化を見据えたときに、どんな資質・能力が必要か」をテーマに熱い議論が交わされました。

まず「**子どもの笑顔**」のためにという点が根本である。そのために、地域と学校が連携して**育てたい子どもの姿**、およびその土台として「**身に付けさせたい資質・能力**」を具体化すると、以下のようになります。

【自立と自律を兼ね備えた子】

- 自分の力で生き生きとひとり立ち(自立)しつつ、心に正しく美しく、自分の行動を律して(自律)生きることができる姿。
- 失敗を恐れず、効率的な「最短距離」でなくても自分で考えて行動し、たくさんの「経験値」を積み重ねて成長していく姿。

【辻堂への深い愛着と誇りを持つ子】

- 辻堂の歴史や文化に触れ、地域での体験的な学びを通して「辻堂の皆さんって楽しいな、面白いな、心地いいな」と肌で感じられる姿。
- 大人になっても「人」や「場所」とのつながりを持ち続け、この地域で育ったことに誇りを持てる姿。

【他者と心地よくつながり、共に歩める子】

- 。 地域の大人の背中(生き方や温かさ)を見て育ち、今度は「みんなのために(めんどくさがらずに)何かをやろう」と思える、奉仕や協力の精神を持つ姿。
- 。 相手の気持ちに寄り添える想像力を持ち、違いを認め合って誰もが安心して過ごせる居場所を一緒につくれる姿。

まとめ:身に付けさせたい資質・能力

上記の子どもたちを育てるために、学校と地域が日々の教育活動や生活の中で育んでいくべき具体的な力

① 思考力・判断力・表現力(自分で描き、伝える力)

- 。 **言葉のセンス(自己表現力)**:自分の心にぴったりの表現を追い求め、自分の気持ちや考えを相手にしっかり伝える力。
- 。 **対話から学ぶ力**:友達や地域の人など「人の話を最後までよく聞き」、多様な言葉や価値観から学びを深める力。
- 。 **発想力と課題解決力**:これからの変化の激しい時代を生き抜くために、自ら問いを立て、どうすれば人と「つながれるか」を自発的にデザインする力。

② コミュニケーション能力と人間関係形成力(つながる力)

- 。 **つながり方を学ぶ力**:学校内にとどまらず、地域の人々や社会とどのような方法で心地よくコミュニケーションを取り、協力関係を築けるかという実践的な力。
- 。 **相手への想像力**:自分と異なる背景を持つ相手の気持ちにもそっと寄り添い、思いやりを持って接する力。

③ 観察力と道徳性・危険予知(事実を見極め、自分を律する力)

- 。 **事実を見極める観察力**:流されることなく、目の前にある事実をしっかりと見極める眼を養い、心を耕すこと。
- 。 **危険予知・危険回避能力**:社会の変化や日常の中に潜む危険を自分で察知し、安全に行動を選択できる、生きていくための実践的な知恵。

④ 郷土愛(地域への愛着)

- 。 **辻堂の資源を活かした体験力**:辻堂ならではの自然や歴史、人材をフルに活かした「本物の体験」を通して、心に残る思い出をたくさんつくり、それを自分のエネルギーに変える力。

4. 委員・参加者からの主な意見・感想

- **地域人材のプラットフォーム化**: 辻堂市民センターが学校のニーズに応じた具体的な人材紹介を行えること、また長久保公園の自然に詳しい人材などの具体的な連携イメージが共有された。
- **学校を支える文化への共感**: 辻堂地区は自治会組織率が高く「地域が学校を支えようとする文化」が強いこと、PTA のネットワークを活用した付き添いや集団下校の人員確保に協力できることが表明された。
- **地域との関わりの強化**: 現時点で学校との関わりが薄い自治会もあり、今後は掲示板の活用など、相互に気にかける行動を増やしていく必要性が指摘された。